



大いちょう

平成29年 6月30日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 平成29年度 No. 4 048 (829) 2737

収 穫

石 山 大 介

明日から7月。同時に太平洋高気圧が夏の強い日差しと暑さをもってくるようです。気温の低めの梅雨空が続いていたので、急な気温の上昇に体調をくずさないよう、一学期の締めくくりの3週間、気を引き締めて元気に生活しましょう。

この時季、始業前や業間に、低学年の児童たちがペットボトルに水を満たし、ニコニコしてプランターの置いてある校舎南側に向かって走っていき姿が目立ちます。「僕の朝顔 咲いてるー」「私のもー」という甲高い声が聞こえてきます。短くてかわいい乳歯の前歯をキラキラさせて、低学年の子どもたちが動き回っています。水やりと観察です。

5月の連休の後、生活科や理科の学習で蒔いた種が芽を出し、花を咲かせ、今、実を付けました。

1年生は朝顔。2年生はミニトマト、なす、ピーマン、きゅうり、枝豆。3年生はオシロイバナです。「僕のは、15コ咲いたよ。」「校長先生、僕のミニトマトいいでしょ、校長先生にもあげるよ」。

また、「それ、校長先生にも分けてくれるかなあ?」と尋ねると、困った顔をする子もいますが、自分が育てた花や実を見て、どの顔も一様にとっても嬉しそうです。その笑顔の渦に巻き込まれてこちらも嬉しくなってきます。

子どもたちが嬉しいのは、朝顔の花がきれいだから、ミニトマトがおいしそうだから、でしょうか。

朝顔や野菜などの栽培は、生活科や理科の学習活動として行います。生活科では、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養うことを目標としています。よりきれいな色の朝顔や、よりおいしいミニトマトの栽培自体が目的ではありません。そこには、もっと素敵なものを子どもの中に育ててくれる隠れた目的があるのだと思います。

自分の鉢に自分の手を使って土を入れ、自分の手で種を蒔き、水をやる。毎日、毎日、いつの日か芽が出ることを期待して世話を病む。蕾を見て、まだ青い実を見て、明日こそはと心を込めて、自分で。そして、発芽、開花、結実。感動です。「ウワ〜ッ 咲いた 実った」というその感動は、心をこめて自分の手をかけて関わったという過程を伴っているからこそ、深くなるのです。それは、自分が直接関わったものばかりでなく、他者や自分をとりまくものを大切に扱うという気持ちの起点にもなります。

先ほどの「それ、校長先生にも分けてくれるかなあ」と言われて困ってしまった子どもに、私は心の中でつぶやきました。

「困らせてしまってごめんなさい。だけれど、それでいいんだよ。心をこめて自分が手をかけて苦労して育てたものだから、ウンとは言えなかった。どうしていいかわからなくなって困ったんだね。豊かな心とは、自分の作った物を人にあげられるとか、あげられないとかではありません。それにこめられた自分や人の思いに気付くことなんだ」と。この気付きは人の成長にとって大きな収穫です。

さて、挨拶をしましょう、お片付けやお手伝いをしなさいという躰は、学校でも家庭でもやります。しかし「心をこめて・・・」と子どもたちに迫ることは、少なくなってきている気がします。子どもたちの心を育てるためにも、「心をこめて自分が関わること」を学校や家庭、地域で意図的に働きかけていくことが必要な時代だと思います。

何であれ心をこめる。高砂の子どもたちには、そうやってたくさん収穫をしてほしいと願っています。

一学期も余すところ3週間となりました。平成29年度のスタートの一学期をここまで無事に終えることができました。保護者、地域、PTAの皆様のご理解・ご支援に感謝申し上げます。まずは長期の休業中、子どもたちが安全で無事に過ごせますよう、そして有意義なものとなるよう願っております。ありがとうございました。